

職員研修 報告書・レポート

平成 30 年 11 月 18 日 (日)

氏名：鈴木 洋介

- ① 研修名： 精神・発達障がいのある方への相談ポイント&プチ相談から問題解決相談の技法
- ② 研修内容：
- ・相談者のエンパワーメントを促進するために
 - ・相談は人付き合い・コミュニケーション力を高める。
 - ・一緒にいることから始まる事
 - ・ペーシング・ミラーリングでコミュニケーションをスムーズにする。
 - ・面談をする際に大切な事
 - 相談者自身の気づきを大切に
 - 相手のがんばりを引き出すために行う事
 - 自分も楽になるためのコツ etc
 - ・演習 自己紹介や相談体験
 - 構造化した面接体験
 - スコアリングシート
 - 相談シートを活用した相談の流れ
 - 文字情報を多く用いた相談方法
 - 画像を多く用いた相談方法
- ③ 成果/感想：
- ・相談にみえる方は、何かに取り組もうとしている人→希望を持った人がくるといふ捉えが大切。
 - ・相談者が自分らしく、主体的に生きる・希望を持てる相談を実施し、終わった後に整理することが大切。
 - ・相談者のエンパワーメントを促進するために、本人が方向性をみつけられる希望が持てるよう面談していく→未来を共に創作する。
 - ・相談は相談者が自分の事を語る事ができることが大切。
 - ・相談をすることで、自分の中で状況の整理をすることが出来る。又、人付き合いやコミュニケーション力を高める事ができる。
 - ・相談は傾聴スキルが重要で、相談者・支援者が互いに認め合い、安心できる場を作る心がけが必要
 - ・支援者は、技術にこだわらず相手に合わせて話しをする。又、始めは抽象的な表現をして反応をみる。共通言語のアセスメントを行う。
 - ・相手が話そうとする質問をする。相談者の気づきを大切に
 - ・ゆでたまご理論を使って、相談者の生きる力を増すよう実施する。

- ・自殺企図がある方や殺意のある方にたいしては、状況をどう変えたいのか、相手との関係をどうしたいのかを聞き取り考えて行く。
- ・演習では、シートを活用した面談技法。

以上の事を学んだ

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

・今回の研修で一番頭に残っているのは、相談者→困った人ではなく、希望を持った人・何かに取り組んでいる人という認識で、関わりを持っていく事が大切。その希望や取り組んでいることに焦点をあて、構造化して相談していく事が重要ということを知ることができたので、実践して行きたい。又、相談内容をきちんとまとめ、相談者と共通の認識で取り組んでいく事。ストレングスを活かした支援方法を検討し、本人の方向性を見つけて行きたい。その為には、傾聴スキルをもっともっと磨いていく。

